

美術館との新しい出会い ～ 更新し続ける美術鑑賞 ～



鑑賞教育指導者研修

● 講師 一條 彰子 氏
独立行政法人国立美術館
国立アートリサーチセンター
ラーニンググループリーダー



日時 令和6年1月20日 13:00～15:00
場所 東洋大学 白山キャンパス5号館1階5102教室

〒112-0001 東京都文京区白山5丁目28-20

<https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/access/>

定員 40名(対面開催のみ)

参加費 一般3,000円 会員1,500円
学生1,000円

申込み <https://inseajp-seminar2023-03.peatix.com/>



美術作品を前にして、鑑賞者がファシリテーターを介しながら感じたことや考えたことを発言し合い思考を深めながら、意味や価値を作り出していく対話的な鑑賞活動は、今や学校現場や美術館などでかなり一般的になったと言えるでしょう。対話によって美術に接する活動は、私たちに美術作品や美術館という存在のハードルを下げ、より身近なものにしました。



小学生向け鑑賞ワークショップ
(東京国立近代美術館)



アートカード



高齢者の美術鑑賞効果測定
(国立西洋美術館)

今回の講師である一條彰子氏は、前職の東京国立近代美術館等で教育普及活動に長く携わり、平成18年から毎年実施している「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」の中心的役割を果たすなど日本の鑑賞教育を改革し続けてきました。一條氏は現在、国立美術館本部に設置された国立アートリサーチセンターで、日本の新しい美術館教育について活動されています。今回は、一條氏がこれまで美術館で行ってきたアートカード体験、対話的な鑑賞体験、鑑賞素材ボックスを使つての授業案(活動案)を考える体験等を参加者とともにワークショップ形式で行います。また、同センターの活動や今後の美術館の在り方等の講演により、これからの美術館との豊かな関係性について考えていきます。



公益社団法人 日本美術教育連合

International Society for Education through Art in JAPAN

<https://insea-in-japan.or.jp/index.html>